

# 国労水戸

国労水戸地方本部  
 水戸市中央1-1-11  
 ENYビル2F  
 029-221-4008  
 発行責任者 菊地忠志  
 編集責任者 坂本公則

## エルダー組合員交流会

### 再雇用制度で意見交換する

地方本部は7月26日、第3回エルダー組合員交流会を開催し、エルダー組合員の職場状況などを含め意見交換を行いました。



この間の交流会では、「2008年5月労働時間で休日もJRより少ない」「年金との関係で28万上限で超勤は損になる」「賃金が2回支給されるが、手取りは10万以下」など、切実な要望が出されました。東日本本部の交渉で会社は、エルダー社員制度について大枠を変更する考えはないと主張しています。地方本部は、東日本本部交渉を踏まえ取り組み強化する報告を行いました。

私達の求める65歳定年制度は、安心して定年まで就労出来る職場を作ることです。引き続き本部、東本部、地方本部が連携し奮闘して行きます。

組織強化・拡大、労働条件改善の闘いに奮闘しよう！



### 2014年運動方針 (第28回東日本本部 定期大会議題から引用)

JR職場では、旅客会社、貨物会社問わず地方も含め外注化・業務委託化が拡大されています。

JR東日本では、2001年には設備メンテナンス体制を皮切りに、「2008今後の駅のありかた」施策では、出向社員を作り出し、さらにグリーンスタッフ

にみられる契約社員という不安定雇用者を生み出しています。2008年にはエルダー制度の導入、2012年には、「グループ会

### 鉄道退職者の会が加入呼びかけ

エルダー組合員交流会に、鉄道退職者の会から関暁事務局長が出席し加入呼びかけを行いました。会は、茨城、いわき、原ノ町の3支部で構成され各分会単位組織になっています。

高齢化社会が強調され、社会保障の財源難が叫ばれている中、高齢者退職者等は厳しい生活環境にさらされています。年金、医療、介護等欠くことができない課題が制度の後退、切り捨てとされはじめています。JR退職者は特に年金が低い状況にあります。

国鉄に入社時、賃金は低くても年金等がしっかりしているからと、高い共済掛け金を支払って来ました。国策としての大量採用、大合理化は当然の結果として国鉄共済の経営状況悪化を生み、大幅カットされました。鉄道退職者の会は、待遇改善に向け会員の拡大を柱に活動を強化して行きますと訴えました。



社と一体となった更なる業務の推進」により検修、構内業務が外注化されました。こうしたJR会社の合理化施策に合わせて、各系統別子会社の再編も進められてきています。

JR及びグループ会社を見渡すと、プロパー社員、契約社員、エルダー社員、パート・アルバイト等雇用も多様化しています。

現在、JESSとの間で「労使間の取扱いに関する協約」を締結しましたが、今回の取り組みを一つの突破口として、他グループ会社に対しても、労使関係の

確立をめざし取り組みを進めて行かなくてはなりませんし、職場環境や労働条件改善の闘いを通して、国労への組織化につなげていかなくてはなりません。

